

理数科 出前講義を実施しました。

6月28日(月)理数科1,2年生を対象とした出前講義を実施しました。

今回は、7月の校外学習で訪れる上高地の事前学習として、中部山岳地帯の自然と現状を学びました。

○講師 楠田 哲士 氏

(岐阜大学応用生物科学部 生産環境科学課程 准教授)

○題目 岐阜県の鳥”ライチョウ”の危機と保全

○内容 岐阜県をはじめ中部山岳地帯にしか生息していない国の特別天然記念物“ライチョウ”が絶滅の危機に直面しており、環境省や岐阜県などが保護計画を発表した。危機にあるライチョウの現状と国家プロジェクトである守る取り組みについて講義された。



○生徒の感想

・世界から見たライチョウの希少性を知ることができ、ニホンライチョウや高山の生態系についても興味を持ちました。気候変動などの影響が出てきている中で、中央アルプスでの個体数の増加の取り組みもあることを知り、前向きに考えたいし、成功できるように身近でできることがあったらやりたいです。

・ニホンライチョウは標高が高く、寒い所でなければ生息できないということは、気候変動の影響で生息地が減っていくから、繁殖したすべてが野生復帰するのは難しいのではないかと思った。

・ライチョウの生息地帯がサルやキツネなどに侵されているのを知って、これらの生息する環境が人によって失われていると思った。低地から動物が山に追いやられないようにするためにも、人間の開発の在り方を考え直す必要があると思った。



- 岐阜県は県鳥がライチョウであるのに県民とのつながりがあまりなかったことに驚きました。今、地球では気候変動が進んでおり、環境が変化していることが分かり、生息域内外で保全をし、ライチョウだけでなく生態系すべてを岐阜県全体で守ることが大事だとわかった。